

弓道ながの

第81号

発行：長野県弓道連盟
会長 松島貞治
〒399-1801
下伊那郡泰阜村4139
TEL0260(26)2628
編集：県弓連部
印刷：県成進社

巻頭言

弓道と私(思いつくままに)

長野県弓道連盟副会長 山浦博



弓道を始め
て四十一年、
私が弓を始め
た切っ掛けは、
同僚の熱心な
誘いがあった
からです。そ
その翌年の三月に初段、九月に弐段
と順調に昇段し、五十七年の十月に
四段を認許されました。その後は趣
味の釣り(主に溪流、鮎の友釣り)に
没頭し長いこと弓具を手にする事は
ほぼありませんでした。平成元年、
当時の県弓道連盟副会長、蟻川先生
からの連絡を受け、又、時を移さず
県弓連会長の浜先生からも電話で直
接同様のお話をいただきました。そ

の内容は、静岡市で開催の全国教職
員弓道大会に参加し、大会終了後に
行われる昇段審査を受けてみないか
との誘いでした。しかし、約七年間
ほとんど弓に触れず、審査から遠ざ
かり、しかも初めての全国審査とい
うこともあり、当然のことながら不
安で一杯でしたが、折角の話でもあ
り覚悟を決め、稽古に専念しました。
その甲斐あって五段に合格、その翌
年錬士の称号を授与されました。そ
の後、平成八年十一月八日の東京中
央審査会において教士の称号を授与
され、そして昨年令和三年十月八
日、長野県弓道連盟の推薦をいただ
き日弓連より弓道七段の段位を認許
されました。これは偏に県弓連会長
はじめ、事務局、県弓連弓士の皆様

のご支援、ご教授の賜と衷心より感
謝し、御礼申し上げます。

昨年コロナ禍の中、弓道場は言
うまでもなく公共施設がことごとく
閉鎖され、味気なく退屈な日々が暫
く続きました。ようやく規制が解か
れ日常が戻り、待ちに待った道場通
いを再開、近ごろは毎日の道場通
いが日課となっています。

現在は、弓を引き、絵を描く事に
何の問題、違和感も感じませんが、
弓道を始め二年前、美大時代の友
人の勧めもあり、スペインへ渡航し
バルセロナの美術学校で描画技法を
学びました。帰国後、学生時代から
付き合いのあった新宿の紀伊国屋画
廊、銀座のパピエ画廊などからの出
品依頼が急に増え、今までに経験し
た事がない程の忙
しさでした。そん
な折の弓道開始に
は、色々な差障り
が生じ、その中で
も長く尾を引いた
のは、絵を描く時
の高揚感(心のとき
めき・たかまり)と
弓を引く時の沈静
感(心を静める)の
微妙な精神状態を

コントロールすることでした。今と
なっては何ら差し支えはありません
が、当時は本当に悩み苦しみました。

私の高校弓道指導は弓道を始めた
翌年から現在に至る四十一年間、私
の弓道修業とほぼ同じ年月です。そ
の間、伊勢神宮の全国大会、北信越
大会での団体、個人優勝。また、国
体では近的、遠的で二年連続の入賞
を果たし、当時の県弓連会長、古澤
範士より称賛されました。しかし、
それら以上に今、私の心に残り、誇
りに思う事は、弓道場稽古はほとん
どなく巻藁稽古だけで、七年続けて
県大会へ出場し、生徒と共に戦った
あの楽しかった日々の思い出です。

以上、取り留めのない文章ですが、
よろしくご判読ください。



初段認許当時

退任役員挨拶



ジュニア部担当
前副会長
八角 裕之

退任にあたって

このたび、教職を定年退職することにもない、副会長の職を退任いたします。

五年間、ジュニア部担当として大変お世話になりました。もとより力不足で、連盟のお役に立つことがなかなかできず申し訳ありませんでしたが、重責の中にも貴重で楽しい経験をさせていただきました。五年間何とか務め上げることができましたのも、外蘭前会長、松島会長をはじめ関係してくださった皆様のお力添えのお陰と、心より感謝申し上げます。

私が任に就いてから、「高校生の

審査離れ」が各所で話題に挙げられました。その原因の一つとして弓道部員数の減少、さらに言うところと高校生数の減少がありました。また、

高校各校で「運動部活動方針」が新たに設けられた時期でもあり、高校生の現況を皆さんにも知っていただきたいと、二号にわたって拙文を「弓道なごの」に掲載していただきました。それらのことが懐かしく思い出されます。

その後、思いもよらなかった新型コロナウイルス感染症のために、高校生や中学生を取り巻く状況はさらに厳しくなってきました。ただこのような大変な中でも、各地区の弓道場で熱心に中学生・高校生の指導をしてくださっているという話をお聞きし、衷心より御礼を申し上げます。様々な制約の中、生徒たちは真摯に弓道に向き合っています。今後とも中学生・高校生の弓道の活動につきまして、

格別なるご理解とご支援を賜りますようお願いいたします。

最後になりますが、長野県弓道連盟の益々のご発展、ならびに役員・会員の皆様のご健勝とご活躍を心から祈念いたします。退任の挨拶とさせていただきます。



弓道合宿予約随時受付中！

野辺山洗心弓道場

- 近的道場 18人立1ヶ所 (床暖房完備)
- 12人立2ヶ所
- 遠的道場 1ヶ所

帝産ロッチ

〒384-1305
長野県南佐久郡南牧村野辺山1003
HP : <http://www.teisanlodge.com/>
ご予約・お問い合わせは 0267-98-2861

新年度スタート！各事業部から



会長
松島 貞治

底辺は広く、頂点は高く

令和四年度の事業が始まりました。コロナウイルス感染拡大第六波の影響は大きく、理事会、評議員会は書面議決を、事業部会もそれぞれで必要に応じてというお願いをしました。代議員制の総会ではありますが、直接意見交換をして、交流できる貴重な機会を失い、ほんとうに残念でなりません。ただひたすら収束を願いながら令和四年度の事業を実施していきたいと思います。事業は、事業部長、部員の力で進められ、そこに参加する会員によって成功します。つまり、みんなの力で長野県弓道連

盟が運営されている、会長がこの基本を忘れないようにしなければと思います。

県弓連の現状、課題ですが、一つは、会員減少が続いていることです。人口減少社会で、増加は厳しいですが、会員減少速度を緩やかに、そしてできれば歯止めをかけた。一般会員の登録ピークは、1600人台ですが、現在は、1220人です。それぞれの支部での弓道教室に期待しております。一方、高校生弓道部員は、少子化が進みながらも横ばいとのことでありがたいことです。卒業後、継続できる環境整備に知恵を出していくことが必要です。いま一つは、高みを目指す弓士には、七段、八段の誕生が待たれます。これは一朝一夕にできることはありませんが、指導部でも各種講習会を計画し進めていきます。伝統ある長

野県弓道連盟の底辺を広くし、頂点を高くし、こんな思っているところ。と

ところで、村の道場へ若い弓士がたまに来ますが、彼らは、弓の稽古が目的ではありませんが、それだけでなく仕事のストレス解消であったり、若い者同士の交流であったり、そんな時間を過ごしたいようです。武道の修練の場所という昔気質の年寄り(私のこと)が威張っているのは、若い弓士が去っていきま。若い人も含めみんながホッとでき交流できるそんな空間、道場がこれから求められているのでは。弓道人口拡大のため、私も変わらなければと思う昨今です。



総務部長
中山 光康

総務部長を仰せつかっています中山と言います。昨年度もコロナウイルス感染症の増加に伴い、祝

射会を集まって実施できない、各種会議も書面議決になるなど例年と異なる対応になりました。開催できた北信越国体をはじめとして、多くの方々にお世話になり一年終わることができました。また、11月に行われた北信越選手権大会は、長野県が当番県でしたがオンラインで開催し、新しい形の大会運営を行いました。長野県選手の活躍も多く実りある大会でした。北信越国体でもインターネットを一部活用しましたが、大会においてインターネットをどう活用して情報発信していくかは、今後検討していく必要がある課題であると思えます。

本年度の総務部の行事計画は例年通りの事業を計画しました。この他には、六月に長野市で行われる錬士臨時中央審査会の主管があります。また、令和十年に長野県で開催予定の第82回国民スポーツ大会(令和六年から国民体育大会が名称変更)に向けて、中央競技団体の視察が予定され徐々に準備が進むこととなります。



コロナウイルス感染症が発生する前の状態に、完全に戻ることは困難かと思えます。しかし、全弓連の動向をみても、中央審査・全国大会など感染対策を行いながら実施する方向で進んでいます。長野県弓道連盟の行事も、対策をしながら進める限り実施できればと考えています。各種行事開催にあたり、体調を整え当然参加するところから、体調の悪い時は欠席をする、本人または家族に感染の不安がある場合も欠席をするなどの対応をしていただければ有難いと思えます。本年も計画通りに行かないことがあるかもしれませんが、ご協力をよろしくお願います。



指導部長
新津 一夫

令和四年度に思う

令和三年度は、県連役員・各支部長様にお世話になりながら、指導部の計画にご協力いただき誠にありがとうございました。(今年度は地方委員資格更新者多数、及び弓道コーチ1取得者の委員登録も無事に終了)

コロナウイルス感染症の第五波(第六波(オミクロン株)が全国レベルで蔓延しており、全国的にコロナウイルス感染症の蔓延防止期間として、一月二十七日から二月二十七日まで実施されましたが、めだつた効果が見いだせず、更に二週間の延長が実施されている現状で、全県的に市営弓道場(公的な)等は使用禁止状態だと思います。

全日本弓道連盟としては令和四年度の計画は実施するとの見解であり、審査等も従来どおりで計画

されているようです。

さて、今年度の指導部はどのよう計画実施すればいいのか。先ずは伝達講習会は従来、中央の講師が各地の地区指導者講習会を受講者が伝達講習会の講師を務め、全弓連の意思統一、(変更点などの統一)を県内の皆さんに伝達・周知をしていきましたが、四年度は今のところ、各地区ごとに(新潟県・長野県)講師を決め実施し、伝達講習会の形をとらないで講習をすることを考えています。さらに県内では上級・中級の講習会を実施する予定で進んでいます。

昨年は運よく地区指導者講習会を早期に実施できたことから、伝達講習会も実施できましたが、四年度がこのようなコロナ禍で、道場で稽古もできない状況が続くなら、講習会を諦めなければならなくなる場面が出てくると思えます。

長野県も弓道人口の高齢化が進む現状です。昨年度は、コロナ禍で弓道教室等で一般の方たちにアピールもできない等厳しい状況にありながら、各地区で小規模でも

講習会や教室を実施していただき、心強く思いました。今年度も引き続き各地区での定着を心よりお願いいたします。

早くコロナウイルス感染症が収束し、今までのような活動ができる事を祈りたいと思います。



競技部長
内山 喜照

柔軟な対応でコロナをやり過ぎこしましよう

令和三年度は多くの会員のご理解とご協力をいただき、厳しい環境下にもかかわらず五つの競技会を実施することができました。五月連休の京都での全国大会は地方での分散開催となりましたが、多くの会員に参加いただいた上に三名の選手が入賞されました。おめでとうございます。また、オンラインでの全国大会でも準優勝とい

う立派な成績を収めていただき、大変うれしく誇らしく思います。

令和四年早々に長野県下にもまん延防止等重点措置が適用され、令和四年度も大変厳しい環境になるものと思われます。執筆時(二月二十三日)現在、全く見通しが立たない状況であり、始まる前からご心配ならびにご迷惑をおかけしていることをお詫びいたします。

生命の誕生以来、生き残ってきた種は厳しい自然環境にしたたかに適応し進化を遂げたもので、必ずしも強い種や大きい種が残れるわけではないことが知られていま

す。私たちもこの厳しい環境に柔軟に対応し、のらりくらりとかわしながら生き延びたいものです。もう、過去と同じような環境には戻せないかもしれません。しかしながら、何とかして安全を確保しながらできることを探しつつ、歩みを止めずに進めていきたいと思

います。状況が良くない時には、前年度の支部対抗のように直前に急遽大会を中止することもあり得ま

人数や集合時間を絞りつつ大会を行うこともあるかと思います。その時の状況に応じて、臨機応変に

大会開催を考えていきますので、どうかご理解をいただきます。参加にあたっては安全重視で、個々の会員の判断にお任せをしております。感染拡大防止の尽力はしてまいります。完璧というわけにはいきません。寛大な心で、柔軟な対応でコロナをやり過ごしたいと思いますので、本年度もどうぞよろしくお願いいたします。



審査部長
篠澤 英次

令和四年度の

審査事業について

新型コロナウイルスの影響に伴い、昨年に引き続きコロナ対応での県内審査会を開催することができま

したのも、関係各位のご協力によるものであり、心より感謝し御礼を申し上げます。

さて、本年度の審査事業につきましては、十四回の審査会を予定しております。全弓連からの方針に従い、高校生のビデオ審査会が必須ではなくなったことから、参加方式による審査会へ戻します。しかしながら、コロナ禍以前の様に受審者とその場に密集することはなく、昨年度と同様に感染防止を施しながら審査会を進めてまいります。主な注意項目としては、

- 開会式・閉会式・矢渡・特別演武は行わない。
- 受付・開始の時間指定を設定する。

○行射後は速やかに退館する。
等、引き続きコロナガイドラインに沿った審査方式で開催をいたします。

次に、審査会時期につきまして大きく春期審査会と秋期審査会に分け、審査が併願可能な日程に設定いたしました。また、審査会全体としては、一般向け審査会と高校生以下審査会に分けました。

これは新型コロナウイルス感染拡大の状況によっては、高校生以下の審査会についてビデオ審査会への対応ができるように区分けしたものです。

学科審査内容につきましては、昨年同様レポート式となります。しかし昨年まで審査当日の提出でしたが、中央審査会と同様に審査申込書と同時に提出する方式に合わせます。

先にも述べました通り、審査会開催に際しては、開催時期のコロナ感染状況により、急遽実施要領の変更や中止に至る可能性も考えられますので、受審の際は最新情報をご確認ください。(変更の際は、県弓連ホームページにてお知らせいたします)

最後になりますが、今年度も受審者の皆様が安全かつ集中して受審できる環境を整えていくよう審査部員一同考えております。関係各位には、昨年同様大変お世話になります。どうぞご協力賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



強化部長
永藤 聡

本国体中止といろいろ

昨年も新型コロナウイルスのため本国体が中止になってしまいました。それも、三重県知事が中止の意向を発表したのが我々にとっては最悪の、北信越国体の一日目というタイミングでした。

割と早い時期に本国体の中止が決まった一昨年には、将来の長野国体に向けてレベルの底上げという強化日程が組めたのですが、北信越国体が終了時点での本国体中止では、どうしてよいかわからぬまま、その後の合宿をこなすのみでした。やはり目標がなくなると選手のモチベーションはあがらないですね。

少し話はずれますが、以前NHKのラジオで選手が良い結果を出すには、高い目標が必要だと言っていました。以下NHKの受け売

りで少し書いてみます。

①緊張

- ・程よい緊張感是好結果を生む。
- ・呼吸・吸うとき強く、吐くときゆっくり吐く。それを繰り返すと緊張感が高まる。

②集中力

- ・集中していなければ結果は残せない。
- ・一点を見つめることで集中力が高まる。

③イメージ

- ・悪い時のイメージをふまえる。
- ・悪かったときはどこが悪いかわよく把握し、それをしないように心掛ける。

④目標

- ・高い目標が必要(プロ野球選手やJリーガーなど)
- ・低い目標を掲げないように

⑤リズム

- ・良い時期、悪い時期のリズムを知る。
- ・悪い時期は必ずある。無理に良くしようと思わず、その時できることをする。焦らない。

以上ですが、①の緊張の補足として、オリンピックのメダリストに何が良かったか聞くと、やはり緊張感をあげる人が多いそうです。試合前にあがった状態では良くないので、「緊張するな」とか「普段通りに」等のアドバイスをよく聞きますが、一考の余地がありそうです。また、②の集中力ですが、イチロー選手は現役時代、球場ごとに見る場所を決めていたそうです。まあ、弓の場合的を見るので、あまり必要ではないような気がしますが、宮澤廣範士は的全体でなく的の中心のみを見ていたそうです。これも「蜘蛛の曲尺、雪の目付」といいますので、見ることにとらわれてはいけないそうですね。以下③④⑤の補足は書きませんが、それぞれ大事なことだと思えます。これらのことを日頃心にとめて実践している人はいついかなる時も良い結果が出ると思います。などと言っても、やはり本国体がないとモチベーションが上がリません。稽古にも身が入らないのではないかと思います。何といっても選手のモチベーションを上げ

るには本国体が行われることが一番です。コロナは相変わらず猛威を振るってありますが、今年こそ栃木国体が行われることを念願しております。何卒。



ジュニア部長
高砂 健司

ジュニア部の

活動について

昨年度はジュニア部の活動に多くの弓士の皆様のご理解・ご協力をいただき、誠にありがとうございました。とはいえ、一般の皆様にはあまりジュニアの弓士と接する機会は多くないのでないかと感じます。特に昨年と一昨年はコロナ禍により、各地の大会も中止されたのでなおさらではないでしょうか。

ジュニア部が関わる事業は幾つかあります。初心者の中高校生向け

の「弓道の手引き」の発行、中学生大会の実施や高校総体・新人大会(高校の大会は共催)などです。昨年度のジュニアの活躍については、全国総体での女子個人三位入賞を筆頭に北信越大会では春の総体、秋の新人大会ともに団体で上位入賞を果たしました。また、射技優秀賞をいただく等、良い結果を残しています。各学校や支部で実際にジュニアに指導していただいている先生方には感謝申し上げます。そして、今の中高生が将来も弓道に携わるように導いていただけることを望んで止みません。

今年度は新型コロナウイルス感染が下火になって、各種大会が開かれることを期待しています。そこで多くの中高生弓士が参加し活躍してほしいと願っています。そのためには学校現場全体の底上げが必要かと思えます。まずは弓道部の顧問同士の結びつきを深め、合同練習や練習試合を多く行ってほしい。大会や試合の頻度を上げることが上達につながるでしょう。その過程で弓道場の使用方法などで一般の

方にご迷惑をかけることもあるかもしれませんが、よろしくご指導をお願いしたい。これからは学校のクラブが一部社会体育に移行されるという話もあります。将来の同好の士を育てるつもりで彼らに接していただければ幸いに思います。



広報部長
中田 美千

新年度にむけて

令和四年度がスタートします。昨年度は、コロナ禍の中でありながら、少しずつ大会などの行事が行われました。編集等を工夫したりはありましたが、おかげさまで、予定通り年四回、10ページでの発行をすることができました。事業を予定通り実施できました事は、皆様のご協力のおかげと本当に感謝しております。

また昨年は、北信越国体では即報を、北信越弓道選手権では即報とさらに動画をYouTubeでホームページからライブ配信するなど、新たな取り組みもいたしました。

弓道場には通信システムがありませんので、周辺の方にご協力をいただき、各事業部と連携をしながら、何とか無事に配信することができました。

ホームページではさらに、会員の方からのご提案を受け大会毎の講評・感想を掲載いたしました。どの大会も無観客で行われたため、会長の言葉を通じ、様子が伝わったのではないかと思います。まだまだ無観客で行われることも予想されますので、引き続き講評を配信できたら、と考えております。

また、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)に関する特別枠では、県連からのお知らせはもちろん、全弓連、国、県、スポーツ庁、スポーツ協会などから入る情報を引き続きご提供できるように

いたします。

広報紙には広報紙の役割が、ホームページにはホームページの役割があるかと考えますが、リアルタイムの情報はホームページで迅速にお手元に届きますよう、そして「弓道ながの」ではさらに生の声を加え紙面に集約した形でお届けできるよう、広報紙「弓道ながの」とホームページの情報とを連携させ、欲しい情報、必要な情報を皆様のお手元に届けられますよう、事業を進めてまいりたいと思っております。

広報事業は皆様のご協力無くしては成り立ちません。身近な情報も掲載しております。周りで起きている、「あんなこと」や「こんなこと」も絶賛大募集中です。どうぞいろいろな情報をお寄せくださいますようお願いいたします。

まだまだコロナの様子をみながらになりますが、令和四年度がスタートします。皆様とご一緒に紙面を作ってくださいと考えておりますので、ご協力をお願い申し上げます。

私と弓道

小諸支部 錬士六段 土屋きよみ

四十年程前です。居合わせた女性五人で勧められて弓道を始めました。

新しくできたばかりの小諸市体育館弓道場での稽古でした。

何か体を動かすことを考えていた事と、少し前に懐古射院で男性の着物姿での射を見て、着物で弓を引く事を知り、弓というより着物に惹かれての入会でした。

長野県は四段の審査から着物と聞いて、まず参段にはならなくてとはと、ちよつと違うかなと思いつつ稽古しました。

五人での入会が半年後は私一人になり、家に近い懐古射院での早朝稽古に変えました。

朝早めに行き、まず、道場内外の掃除。私は苔が半分の矢道の雑草取りです。故栗林範士が見えて、先輩が入れてくださる朝茶を皆でいただき、その後射場に立つ毎日でした。今思うと、恵まれた贅沢な時間でした。

弓は足の裏で引け、会になるとここからが射だ、弓は百力所注意する所がある、射は五段からだぞ、沢山のお声がけをいただきました。私の射への思い、射への姿勢はそのころつくられたと思います。先生方のお顔、お姿は今でも思い出されます。



初段・式段は小諸市体育館弓道場で、参段は上田城跡弓道場でした。きましたが、四段は三年連続残念。そこで改めて射について考えるようになりしました。教本を揃え読み、講習会は全て出ました。いただいたご指導、注意をしっかりと頭に入れて稽古に取り組みようと、懐古射院通いの毎日でした。八年掛りで四段をいただき、その後五段・錬士・六段といただき、四十年の道のりです。

懐古射院は小諸城跡にある後数年で百年になる道場です。春の桜、夏の緑、秋の紅葉、冬の雪景色、四季折々に美しい所です。矢取に出ますと小諸側の浅間山「ギッ歯」が真正面です。こんな素敵な道場で大好きな弓を引いております。

今私は故先生方のお歳と並び、追い越しそうです。射は、あと少しあるであろう伸びしろを期待し、毎日二十射を引き道場に通り事にしていきます。

コロナウイルス 猛威を振るう!!

新型コロナウイルス、感染拡大が収まらず第六波がピークをむかえ、一月二十七日から三月六日まで長野県も「まん延防止等重点措置」が適用となりました。

昨年引き続き第二回常任理事会・理事会と約一か月後に予定されていた令和四年度評議員会は、書面議決に、三月二十日に予定されて

いた令和三年度事業部会は、各部署に必要に応じて行われることとなりました。

会計監査のみ松本市勤労者福祉センターにて行うことができました。書面議決で評議員の皆様から承認を受け、令和四年度の事業がスタートしました。



会計監査の様子

弓仲間紹介

上伊那支部 杉山 滋志

私の出会いツールの「弓道」

私は弓道を始めたのが遅く、平成十六年満四十六歳で弓道を始めました。

駒ケ根のスポーツ協会弓道部主催の弓道教室卒業後、そのまま上伊那支部駒ケ根弓道部に入部させてもらって弓歴十九年が経ち現在に至ります。

途中、東京単身赴任が六年間と半年あり、東京弓道連盟第一区にも在籍させていただき平成三十年に再び駒ケ根に戻ってきました。

私にとっての弓道は、一般に言われている自己の精神修養の道もさることながら、人との出会いの道(ツール)としても役立っています。

弓道を修練していて、良い事は、世代を超えて多くの人と親しくなれたことです。当然東京でも温かく迎えていただきました。

本来ならば、まず交わりのない高校生から、看護大生、各地の諸先輩、上は九十歳以上の大先輩まで幅広くの方と弓道で繋がらせていただいております。

在住地域でいえば、南から九州、名古屋、東京、長野各地区、北は北海道まで幅広く弓仲間が増えました。

中には、偶然出張先の中国で弓士と知り合いその方の道場にて出張中に弓を引かせてもらっている方、フィリピンの弓士と知り合い、その道場を訪ねていった方など世界の方と交流している方もいます。

私の恩師・大先輩は駒ケ根道場の外蘭公毅先生(故)・北村彌昌先生・征矢憲先生をはじめ、東京第一区の窪田史郎先生、伊那道場の(故)山川茂樹先生、飯島道場の今井勉先生、山口安彦先生、松川道場の南島健先生になります。どの先生にも大変お世話になり、門下生の方達にも仲良くさせていただき、お互いに切磋琢磨できる良い関係になっています。

私が所属している駒ケ根弓道部の歴史について駒ケ根弓士伝より簡単に紹介させていただきます。



昭和三十年に駒ケ根市の体育協会に加入し部が発足してから三十六年後の平成三年に現在の駒ケ根市弓道場が竣工しました。このように立派な道場があることに感謝です。

道場ができてからは、組織も充実し国民体育大会、ねりんピック等の大きな大会で優勝するなど、外蘭先生をはじめ優秀な選手を次々輩出してきました。

光前寺奉納大会の復活、五十鈴神社の奉納射会、馬見塚蚕玉神社奉納射会(平成十九年終了)の運営、弓道教室・競技大会と弓道を通じて駒ケ根市に微力ですが貢献して現在に至ります。

弓道とその仲間、私の人生において無くてはならないものとなっています。早期にコロナ禍が収束し、以前のように各種審査・大会と長野の弓士の皆様が活躍できることを祈念しております。

大会結果

令和3年度オンライン全国弓道大会

○令和4年3月13日(日)

松本市弓道場 全国各地をオンラインで中継
参加人数・47都道府県より代表1チーム5名

■予選Hグループ(20射)

1位 福岡県

2位 長野県

3位 山口県

■決勝トーナメント1回戦(20射)

1位 長野県

2位 鹿児島県

■準々決勝(20射)

1位 徳島県

2位 長野県

15 15 11 15 15
中 中 中 中 中





訃報のお知らせ(敬称略)

長野県弓道連盟 飯伊支部

五段 牧内 誠(75歳)

令和4年2月12日(土)

ご逝去されました。

長野県弓道連盟 長野支部

四段 大日方正明(65歳)

令和4年1月29日(土)

ご逝去されました。

長野県弓道連盟 松本支部

四段 味谷詩保子(34歳)

(旧姓 名倉)

令和4年2月19日(土)

ご逝去されました。

ここに謹んで哀悼の意を表し、お知らせ申し上げます。

ちよびん

このコロナ禍、皆様、どのようにお過ごしでしょうか。

『みんな何をしているのかなあ』

この頃、他人の行動がとも気になっています。

まん延防止措置の期間が二週間延長されたり、日本の選手はみんな頑張っているのに今回の北京オリンピックはなんかすっきりしなかったり...

コロナが早く収束するといいですねなどと二年連続で年賀状に書いた気がします。

私自身は、先頃三回目のコロナワクチンの接種も済み、認定こども園で、天気の良い日はアグリパークまでの散歩の付き添いをしたり、雪だと雪だるま、かまくら作り、ソリ遊びをして過ごしています。一日平均一万二千歩から一万三千歩を万歩計が示しています。

地域の行事や会議もなく、飲み会などはもつてのほか。飲み屋への道も、行き方も忘れる程です。

弓道場の方は、市の関係のジュニア部やふれあい教室の活動は休んでいます。コロナ対策をした上で、練習をしている人もいます。

安曇野市では、昨年新総合体育館が竣工したことにより、今年

の秋から、条例の体育施設の使用料が見直され、弓道場も練習時間

が限定されてしまうようです。が、逆に誰でもが予約がとれば

利用できるようになりますので、弓士の皆様のご利用を是非お

すすめします。

この号、発行が四月で状況が変わっているとは思いますが、

『みんな何をしているのかなあ』

弓道なごの編集部までぜひお知らせください。

安曇支部 丸山萬佐巳

寄稿・投稿大歓迎です! ぜひお近くの広報部員まで!

広報部員

大塚利恵子(北信担当)

木村由紀子(南信担当)

榛葉 良美(編集・校正担当)

中沢たみ江(東信担当)

手塚信一郎(HP担当)

中田 美千(編集・校正担当)

丸山萬佐巳(中信担当)

前田 涼(HP担当)